



どもが生まれ、佐藤さんがPTA会長を務める小学校に通わせていました。  
レインボーリボンは佐藤さんたちと共にPTAを「多文化共生」の温かいコミュニティにしようと、サニーさんが参加しやすい活動を積み重ねてきました。その活動の延長線上で、今回、災害に遭った母国の子どもたちを支援したいというサニーさんの気持ちを知ったのです。

ネット会議には国際的な災害援助に実績のある他のNPOのコーディネーターや、同時通訳をしてくれるボランティアも参加しています。

スーさんから現地の状況を聞いた私たちは、まず、佐藤さんのPTAで取り組める支援策を次々とアイデア出ししていきます。現地で救助や医療支援にあたっている国連やNGO組織への資金援助、復興支援物資のリストアップ、物資を送るための基地を学校のPTA室に置くこと……。

たいへんな年越しとなりました。

でも、10年前、たくさんの子どもたちが殺されても何もできず、虚しく悲しい気持ちを抱えていた大晦日を思い出すと、ここまで来ることができて良かった、やっぱり世界は変えられるんだと思いました。

今やPTAと言えば「楽しそう」「やってみたい」と思う親が全国にたくさんいます。PTAは強制されるものではなく、自由に自主的に参加できる活動で、親も子も成長できる多文化コミュニティだということが常識になっているのです。

子どもの幸せのために親と先生が協力して生き生きと働いているのですから、いじめや虐待、体罰、犯罪など、子どもを襲う暴力の芽は未然に摘み取る仕組みができています。子どもの笑顔があふれる世界をつくるためにボランティア活動に汗を流す親たちの姿を見て、子どもは親を誇りに感じています。自分は大切にされている、これから幸せに生きていく存在なんだという自己肯定感を当たり前を抱えています。



2024年のワンダフル・ワールド。2014年はこの世界をつくるための一步を、歩き出した年でした。

(代表 緒方美穂子)

<レインボーリボンのホームページ>

<http://rainbow-ribbon-net.org>